
過去へ

ぼんた

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

過去へ

【Nコード】

N0207Z

【作者名】

ぼんた

【あらすじ】

6代目火影うずまきナルト

第五次忍界大戦を終決させた英雄

うちはマダラを九尾との和解したことにより完全に消滅させたのだ

そして60年あまりの時間が過ぎ6代目火影つずまきナルトはこの世を去ったのだが

『どっなってんだばよ……!!』

何故かアカデミー卒業前に戻っていた

注 中傷などはご遠慮願います

6代目火影うずまきナルト

6代目火影うずまきナルト

歴代火影どころか歴代最強の忍びと言われている

その理由としては第五次忍界大戦による活躍によるものだろう

うちはマダラと激突

苦戦を強いられるものの戦いの最中に九尾と同調し見事にうちはマダラを完全に消滅させた

それから60年あまらの時が過ぎる

ナルトはこの時75歳

しかしその寿命はつきようとしていた

『どつちらみんなとお別れぽいってぽよ……』

『ナルト……』

ナルトの妻であるうずまきサクラ旧姓春野サクラがナルトの名前を
呟く

サクラは始めこそサスケが好きだったのだがナルトの何事にも挫け
ない姿勢に弾かれたのだ

『俺の出来ることはすべてやったてばね。あとはみんなに任せるっ
てばよ』

‘ 九尾……悪いがこっちに一緒にきて貰うぞ ’

【なにを今更……ワシが主と認めたのは6代目火影うずまきナ
ルトだけ！！主が死ぬと言うのであればわしも死ぬわい！！！！！！】

‘ 悪いってばね ’

『サクラちゃん。先にいつてるよ』

『結局ちゃん付けは最後まで直らなかつたわね』

サクラは泣きながらも答える

そしてそのままナルトは息を引き取った

妻のサクラ・子供達・仲間に見送られながら……

こうしてナルトは人生を終えたのだった

卒業試験前日

「ここは何処だ？」

ナルトは目を覚まし回りを見る

『ここって俺が前に住んでたアパート？』

回りを見渡してみたらカレンダーが目に入った

『！！！！！！！！！』

カレンダーにはアカデミーそつぎょうしけんと書かれていたのだ・・・
・・・それも汚い字のつえひらがなで

『どっなってんだってばよ！！！！！！！！！！』

【どっやら過去に遡ってきたようだな】

『！！！！九尾？？？！！』

【どっやらナルトと共に死ぬつもりが過去に帰ってきてしまったら
っつ】

『お前そんなことでかるんだってばよ?』

【出来るか!?!?!なぜ戻ってきたかわしにもわからん】

『うーん』

ナルトは考える。ちなみに勉強は妻のサクラに火影になるときに『デスクワークの仕事もあるんだから勉強ぐらいできなさい!?!』と叩きこまれたのでかなり頭はいい。

それこそこの時代のサクラより

しかし天然ばかのところは結局直らず何かあることに怪力で殴られたのだが……

しかしいくら頭が良くなってもも前代未聞のことゆえいくら考えても分かるはずがなかった

『いま思っただけど3代目のじっちゃんやエロ仙人も生きてる?』

【まあ生きとるだろうな】

『今からなら死ぬはずの人も助けれる?』

【まあ助けれるだろうな……それよりいいのか?】

『何が？』

【時間・・・】

『・・・アア~~~~!!!!』

完全に遅刻である

慌ててナルトは着替える

しかし昔の忍服を手についた瞬間

『うわぁ〜懐かしい〜』

と手が止まるが

【遅刻だぞ？】

と丸尾に言われ慌てて着替えだす

『馬鹿者~~~~!!!!~~~~!!!!』

ナルトは完全に遅刻してしまいイルカにこっぴどく叱られている

『明日は卒業試験だぞ！！お前は2回も落ちてるんだぞ！！遅刻なんてしてる場合じゃないだろ！！！！』

しかしナルトは自分の時代では死んでしまっている恩師に会えたことで感激していたため話しを聞いてなかった

そのためイルカは

ビキツ？

『今から変化の術の抜き打ちテストだ！！先生そっくりに変化する事！！』
キレた

当然ナルトに『お前のせいだぞ』とクラスメイトから言われるのがナルトの耳には入ってなかった

『次ナルト！！』
と言われナルトは普通に印をくみ変化してしまった

『！！！！！！！！』

当然である。まだこの当時ナルトはドベである

「しまった〜!!!」
と思ってもすでに時遅し
イルカは驚いた顔をしている

「誤魔化さない」と、ナルトは誤魔化すことにし

「じつは昨日スゲー修行したんだってばよ!!!だから寝坊しちゃ
ってー!!」

というと

「そうかお前も頑張ったんだな」

と誉められた

「へへっ!!!」

と言っていると

「でも遅刻はほめられんぞ」

とくぎはさされた

家でナルトは九尾と相談していた

「これからどうすればいいと思うってば?」

【とりあえずは全力はださんほうがいいとは想うの。怪しまれるだけじゃろうし。しかしドベでいる必要はないじゃろ。手の内は隠してたとかいいわけはできるしの】

「そうだな。それと今まで使えた術は使えるってば?」

【問題あるまい。変化の術を問題なく使えたことからかんがえてな。

ただ身体能力はもとにもどっておるみたいだがの。しかし昔と違ってチャクラコントロールは完璧じゃしさほど問題あるまい。】

『わかってばよ。とりあえず寝るか』

とナルトは布団に入りタイムスリップ1日目を終えた

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0207z/>

過去へ

2011年12月1日00時50分発行